



2020年3月期第1四半期

(2019年4月1日～2019年6月30日)

決算説明資料

2019年7月30日
ディービーエックス株式会社
証券コード：3079

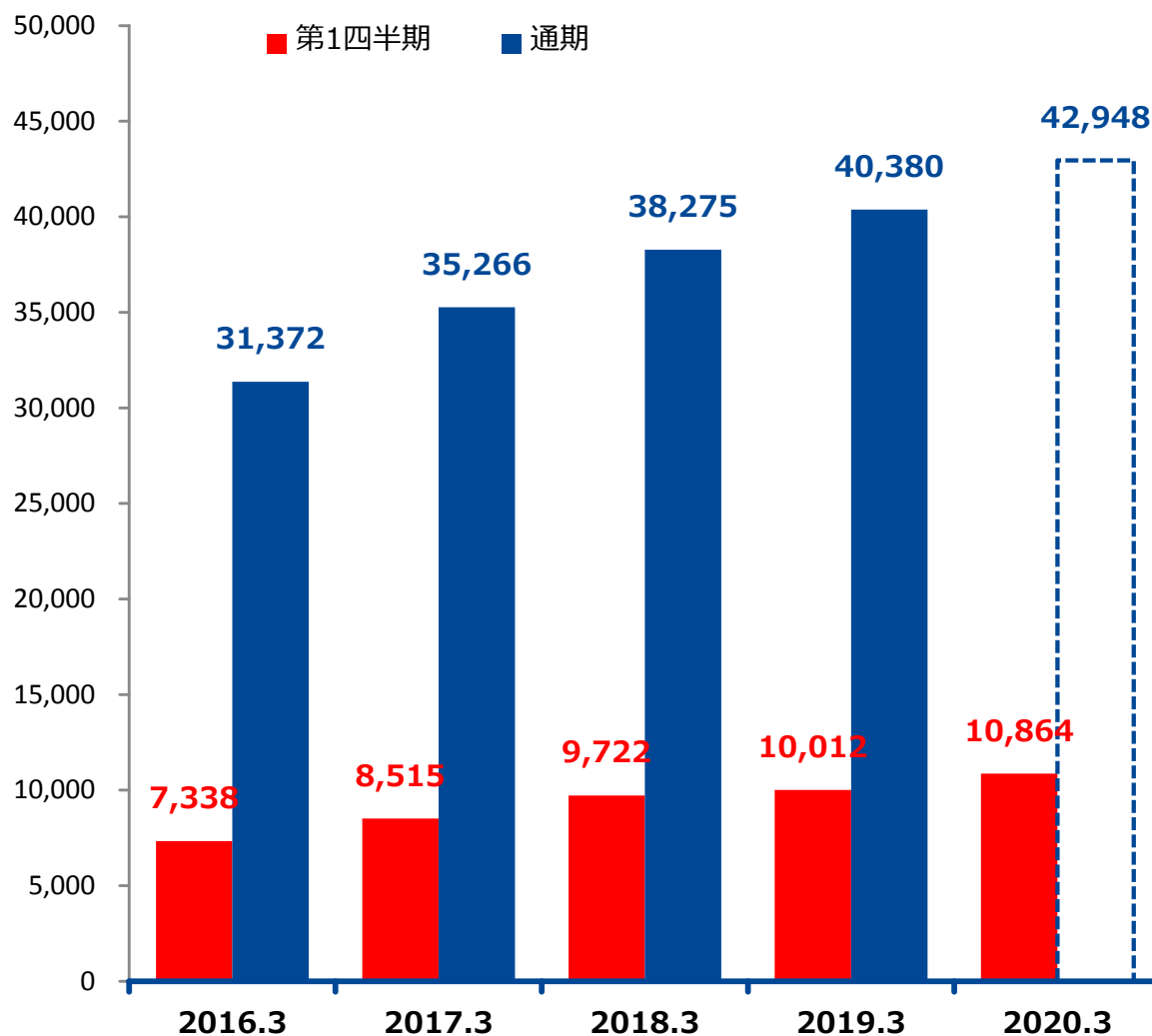
- | | |
|-----------------------|------------|
| 1. 当第1四半期の決算概況 | P3 |
| 2. 業績予想 | P13 |

1. 当第1四半期の決算概況

要約損益計算書（第1四半期）

	実績 (百万円)	対売上高 (%)	前年同期実績 (百万円)	増減率 (%)
売上高	10,864	100.0	10,012	+8.5
売上総利益	1,250	11.5	1,299	-3.7
販管費	1,100	10.1	1,038	+6.0
営業利益	150	1.4	261	-42.3
経常利益	157	1.5	270	-41.8
四半期純利益	106	1.0	235	-54.8

(単位：百万円)

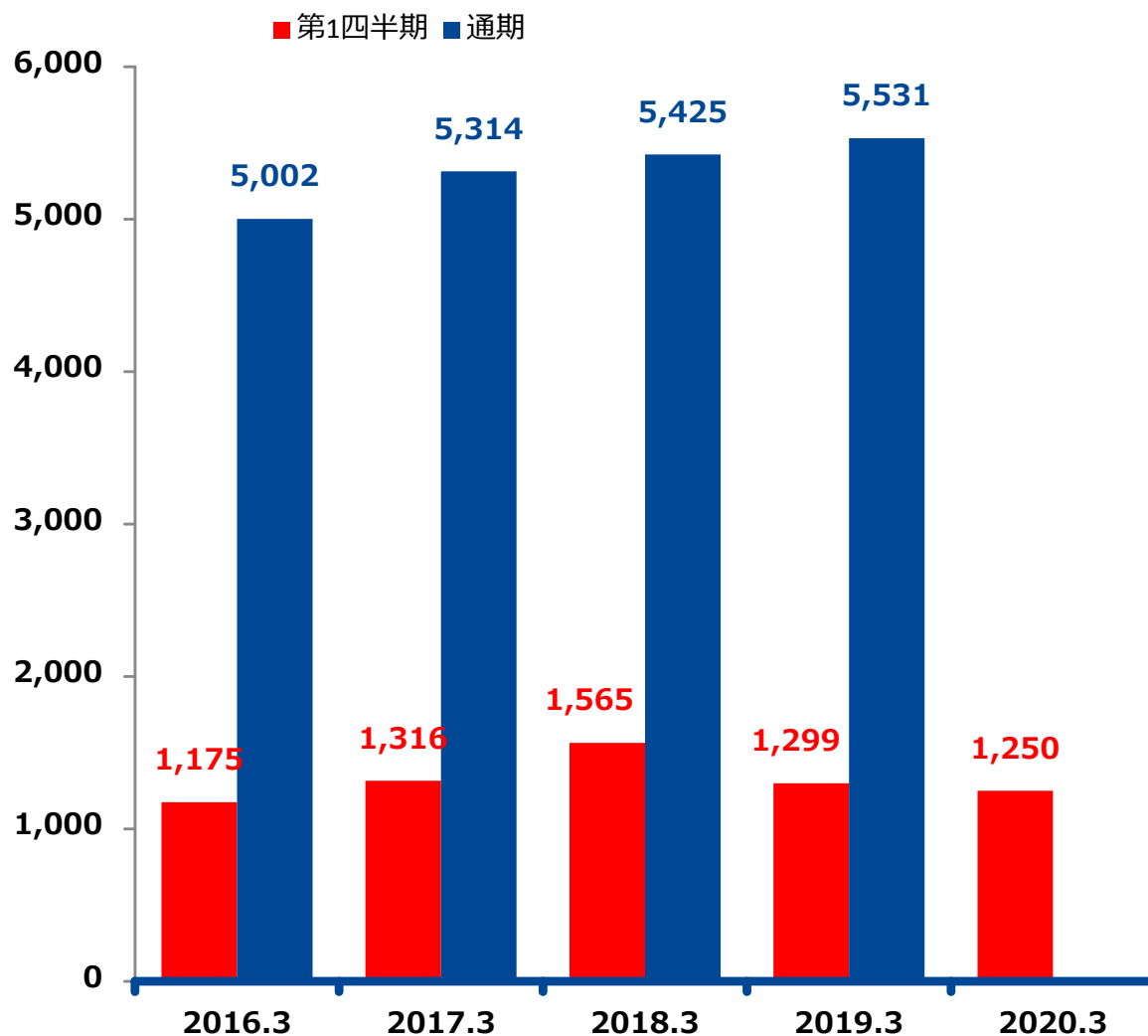


前年同期比**8.5%増**の
108.6億円を達成

- ✓ 医療機関からは、経営環境改善のための値下げ要請への対応が求められる厳しい事業環境
- ✓ 不整脈事業における主力商品（カテーテルアブレーション治療用カテーテル類、検査用電極カテーテル等）の販売数量の増加
- ✓ 虚血事業では、販売代理店としての販売が増加

売上総利益

(単位：百万円)



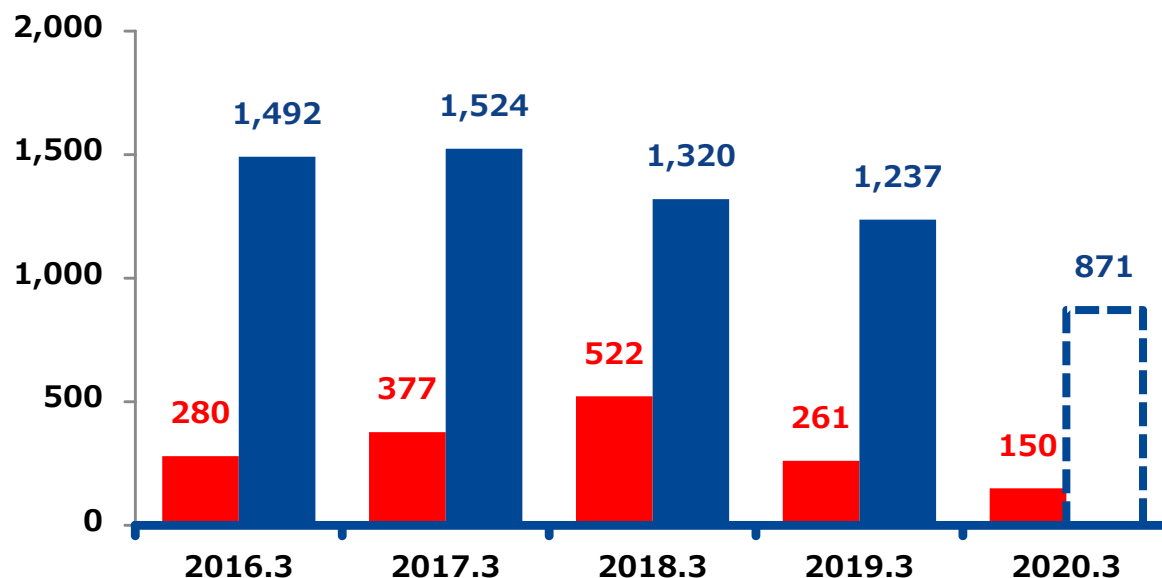
前年同期比**3.7%減**の
12.5億円

- ✓ 仕入先メーカーとのインセンティブ契約の締結による粗利益率改善に取り組む
- ✓ 医療機関からの値下げ要請対応による植込み型ペースメーカー関連商品の粗利益率低下
- ✓ 前年同期に0.75億円計上していた自動造影剤注入装置に関する移管業務委託収入がゼロに減少

営業利益

(単位：百万円)

■ 第1四半期 ■ 通期



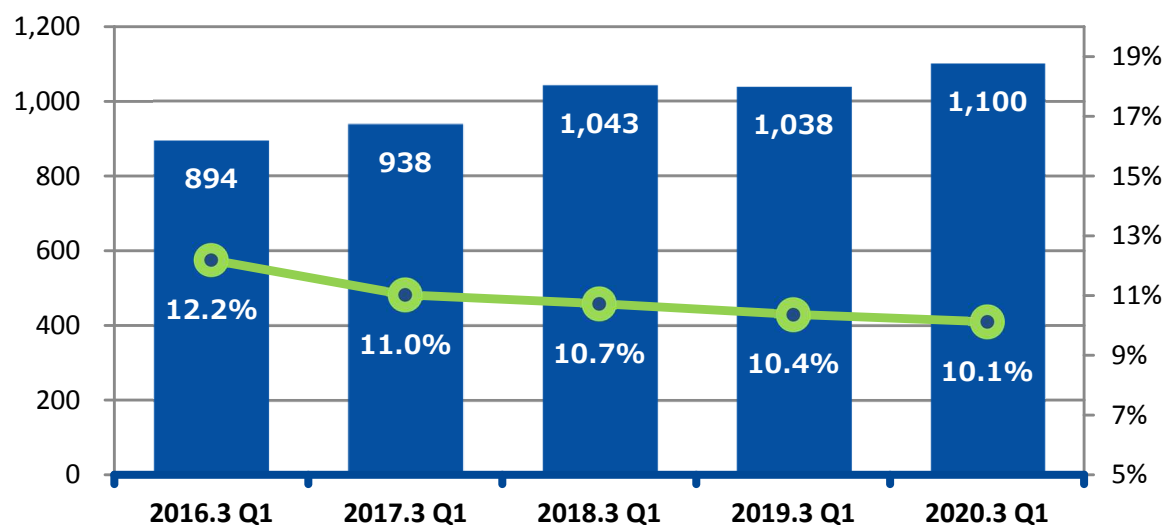
前年同期比**42.3%減**の
1.5億円

減益要因

- ✓ 前年同期に0.75億円計上していた移管業務委託収入の減少や粗利益率の低下
- ✓ 販管費の増加

(単位：百万円)

■ 販管費 ● 販管費比率

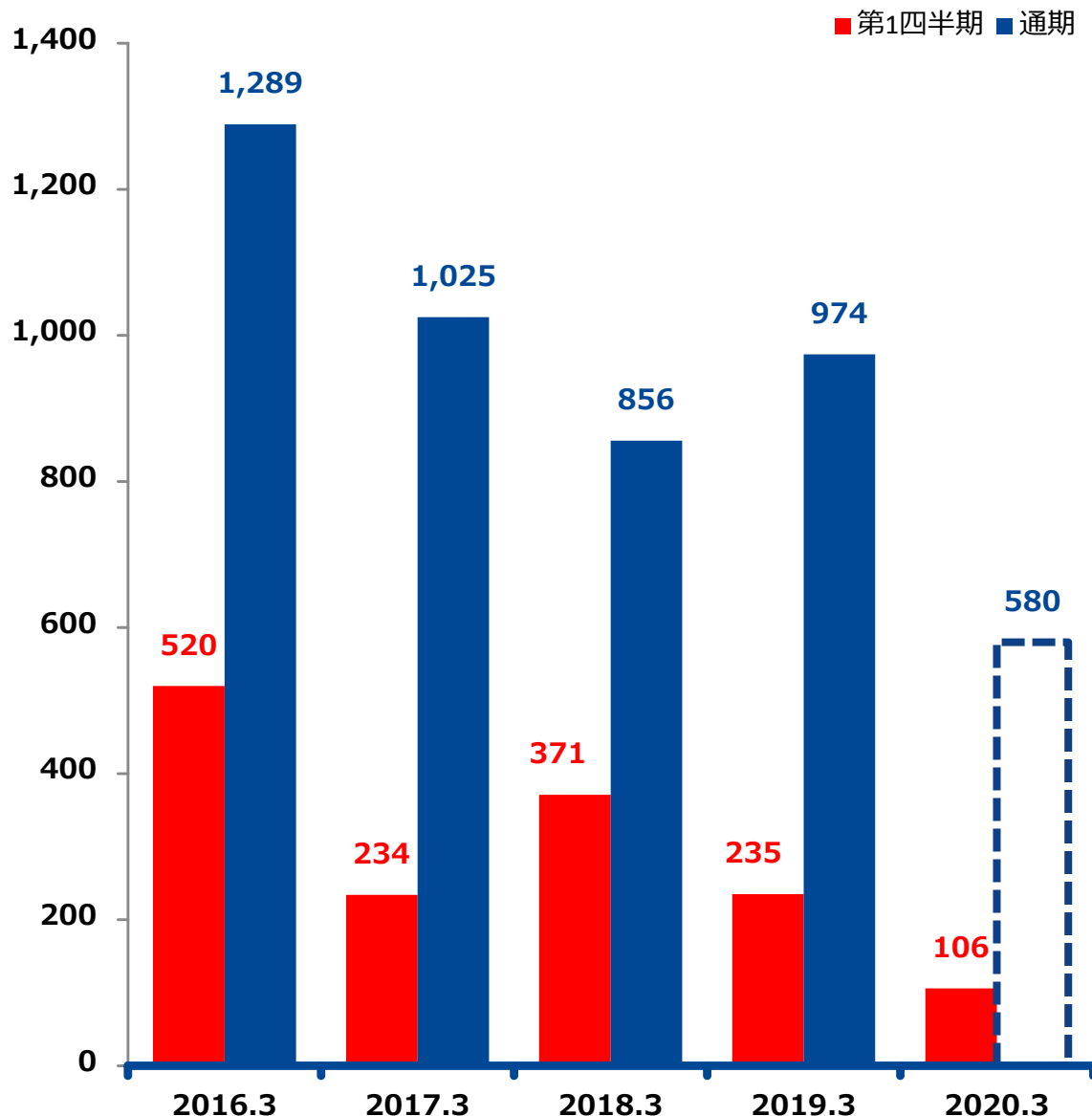


販管費、販管費比率

- ✓ 販管費は研究開発費（約30百万円）や人件費（約17百万円）が増加
- ✓ 販管費比率は 前年同期比0.3ポイント低下

四半期純利益

(単位：百万円)



前年同期比**54.8%減**の
1.0億円

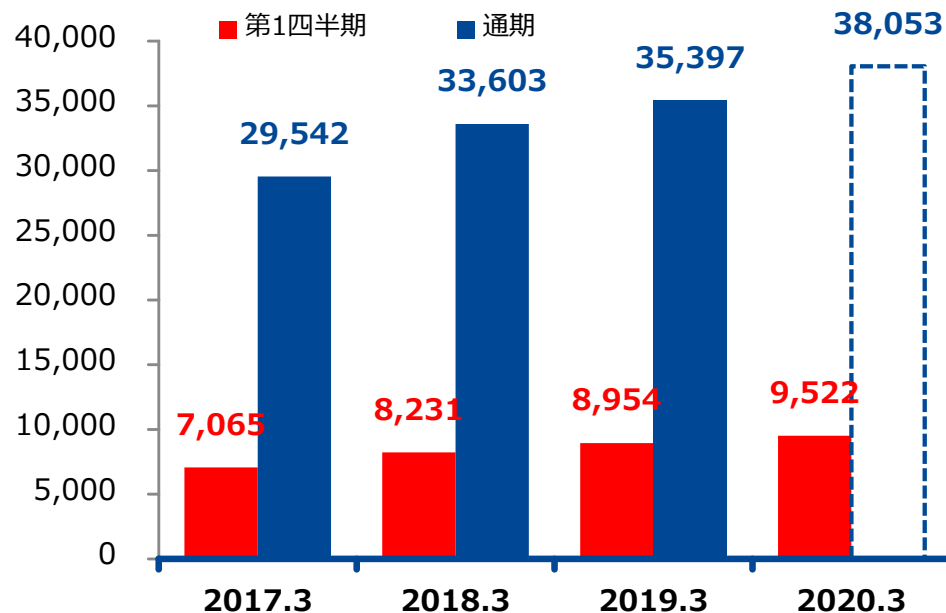
減益要因

- ✓ 前年同期に0.75億円計上していた移管業務委託収入の減少や粗利益率の低下
- ✓ 販管費の増加
- ✓ 前年同期に0.2億円計上していた投資有価証券売却益の減少

事業別業績概況

不整脈事業

(単位：百万円)

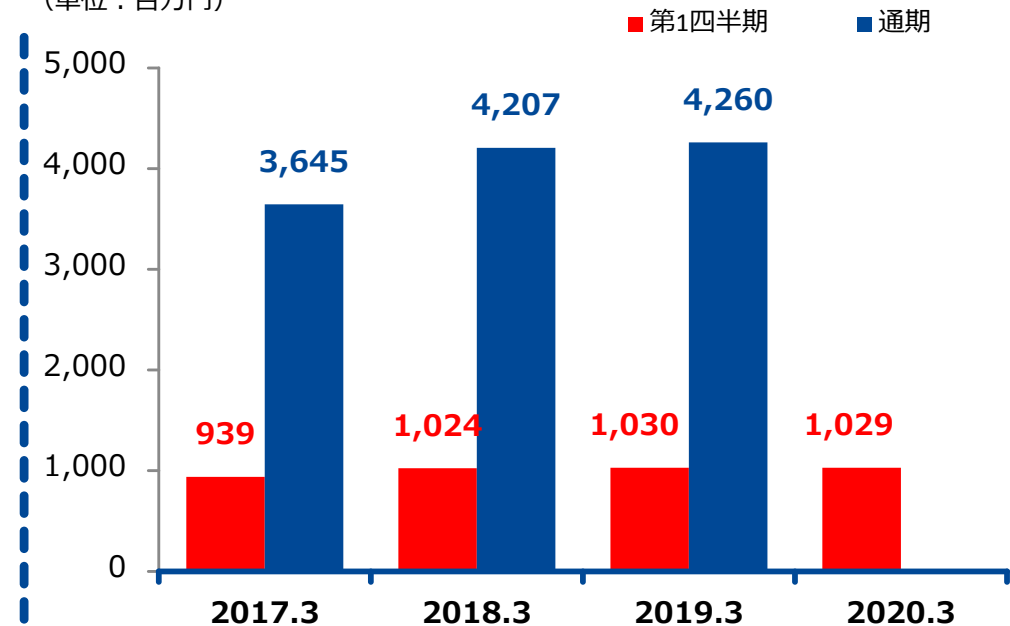


売上高**95.2億円**

(前年同期比**6.3%増**)

- ✓ アブレーション（心筋焼灼術）用カテーテル類や検査用電極カテーテル等の主力商品の販売数量増加

(単位：百万円)



セグメント利益**10.2億円**

(前年同期比**0.1%減**)

- ✓ 利益率は10.5%（前年同期11.5%）
- ✓ 医療機関からの値下げ要請対応により粗利益率低下

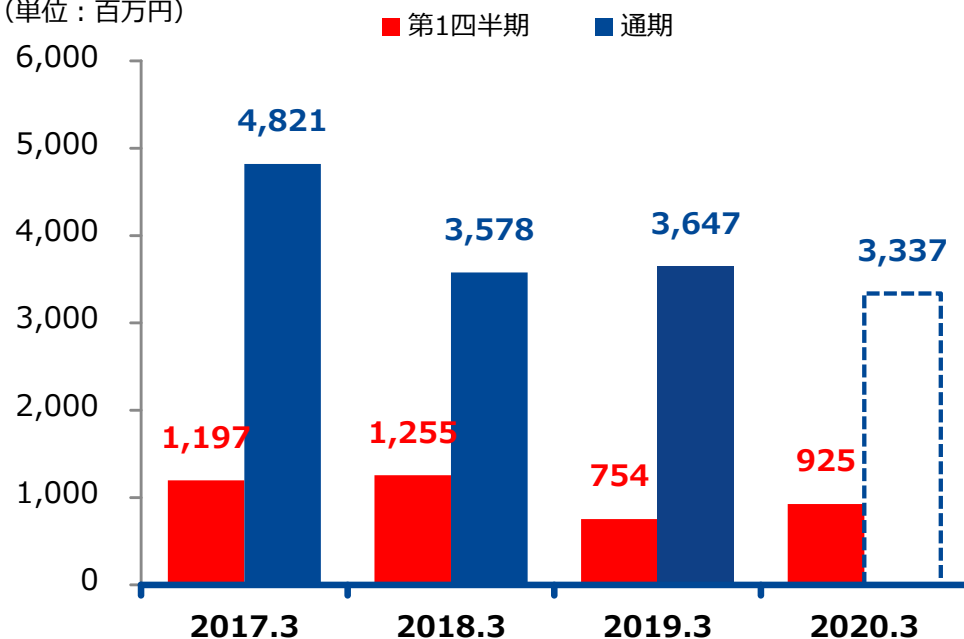
不整脈事業（売上）

	実績 (百万円)	構成比 (%)	前年同期実績 (百万円)	構成比 (%)	増減率 (%)
PM	909	9.5	851	9.5	+6.8
ICD	586	6.2	599	6.7	-2.3
CRT-D	449	4.7	403	4.5	+11.6
電極カテーテル	2,616	27.5	2,423	27.1	+8.0
心腔内エコーカテ	985	10.3	877	9.8	+12.3
ABL機能付	1,391	14.6	954	10.7	+45.9
ABLカテーテル	243	2.6	396	4.4	-38.7
冷凍ABLカテーテル	524	5.5	542	6.0	-3.2
その他	1,815	19.1	1,906	21.3	-4.8
合計	9,522	100.0	8,954	100.0	+6.3

事業別業績概況

虚血事業

(単位：百万円)

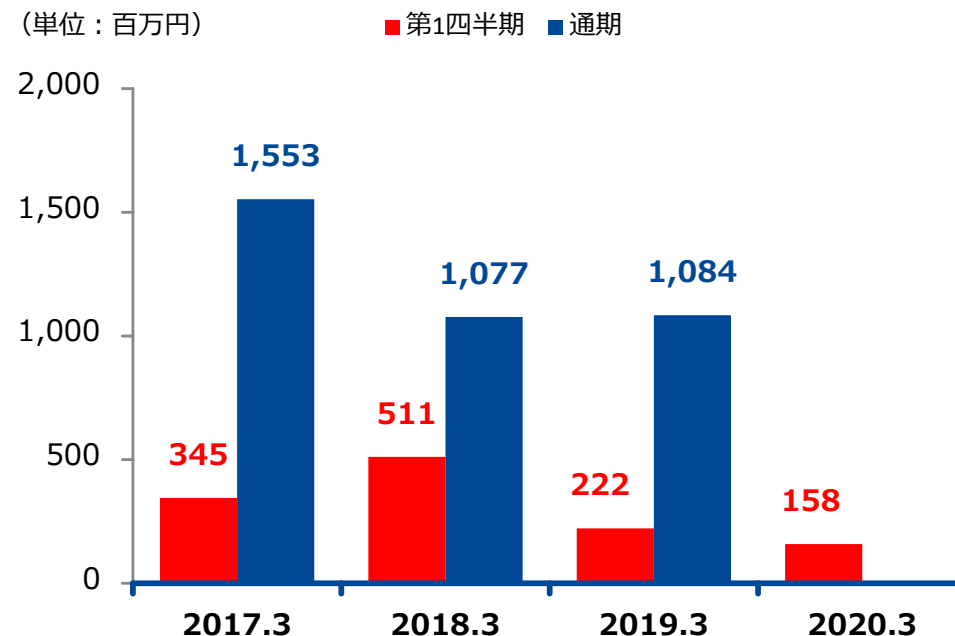


売上高**9.2億円**

(前年同期比**22.6%増**)

- ✓ 販売代理店としての販売が増加
- ✓ エキシマレーザ血管形成システムの販売は堅調

(単位：百万円)



セグメント利益**1.5億円**

(前年同期比**28.6%減**)

- ✓ 利益率は17.2% (前年同期29.5%)
- ✓ 前年同期に0.75億円計上していた自動造影剤注入装置に関する移管業務委託収入がゼロに減少

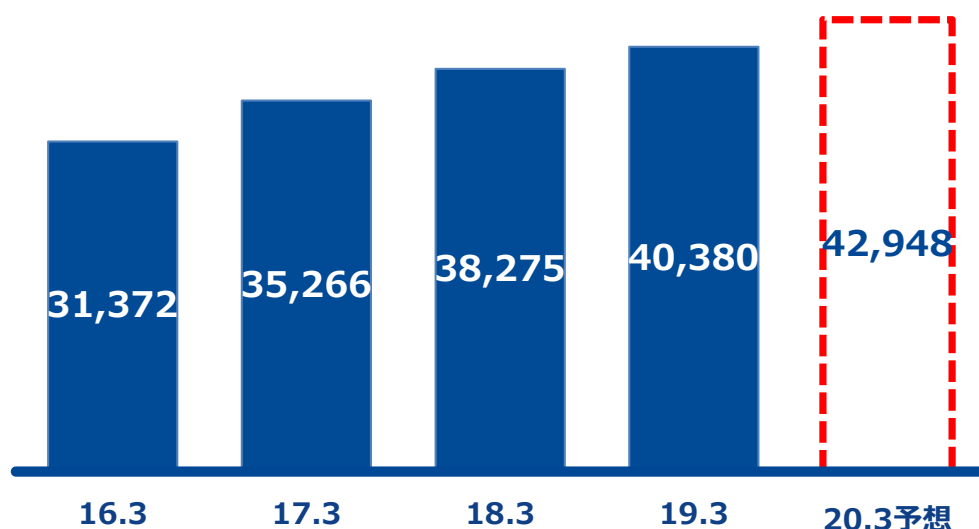
要約貸借対照表（第1四半期末）

	実績 (百万円)	構成比 (%)	前期末実績 (百万円)	増減率 (%)	主な増減要因
流動資産	17,756	92.4	17,211	+3.2	● 現預金の増加（259万円） ● 売上債権の増加（463百万円）
固定資産	1,459	7.6	1,426	+2.3	● 営業用資産（デモ・レンタル機）の取得による増加（87百万円） ● 繰延税金資産の減少（49百万円）
資産合計	19,216	100.0	18,638	+3.1	
流動負債	11,485	59.8	10,686	+7.5	● 仕入高増加による買掛金の増加（845百万円）
固定負債	421	2.2	489	-13.9	● 役員退職慰労引当金の減少（62百万円）
負債合計	11,907	62.0	11,176	+6.5	
純資産	7,308	38.0	7,461	-2.1	● 四半期純利益による増加（106百万円） ● 剰余金の配当による減少（259百万円）
負債純資産合計	19,216	100.0	18,638	+3.1	

2. 業績予想

2020年3月期 業績予想

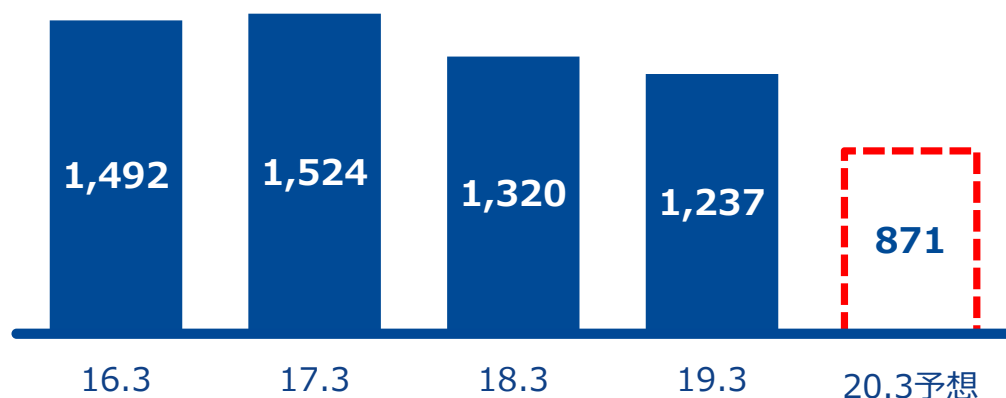
(単位：百万円)



予想売上高 429億円

(前期比6.4%増)

- ✓既存顧客の深耕と営業エリア拡大による上場以来の連続増収を見込む
- ✓独自商品の販売拡大と新商材の獲得に努める
- ✓2019年10月に実施される保険償還価格の改定による引下げを見込む（売上全体の約1.5%）



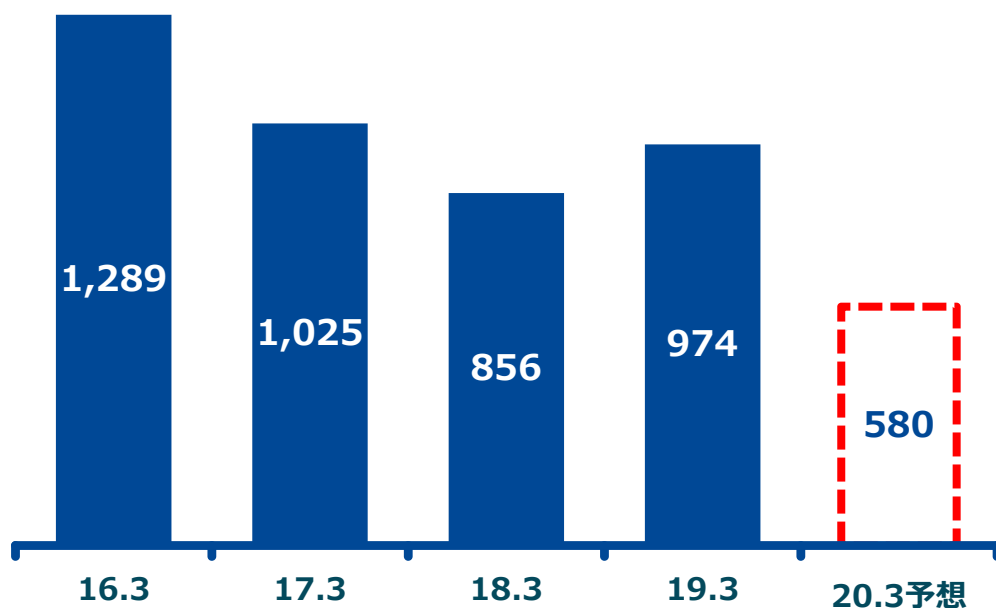
予想営業利益 8.7億円

(前期比29.6%減)

- ✓移管業務委託収入の減少3.3億円を売上増加分で吸収できず
- ✓人件費、減価償却費など販管費の増加を見込む

2020年3月期 業績予想

(単位：百万円)



予想当期純利益5.8億円

(前期比40.4%減)

予想EPS 53.59円

(前期実績88.46円)

減益要因

- ✓ 営業利益366百万円の減少
- ✓ 受取保険金78百万円の減少
- ✓ 為替差益14百万円の減少
- ✓ 投資有価証券売却益21百万円の減少

進捗率

2020年3月期計画（進捗率）

	通期 (計画)	上期 (計画)	当第1四半期累計 (実績)	進捗率 (通期)	進捗率 (上期)
売上高	42,948	21,797	10,864	25.3%	49.8%
営業利益	871	310	150	17.3%	48.6%
経常利益	871	310	157	18.1%	50.8%
当期（四半期）純利益	580	207	106	18.4%	51.3%

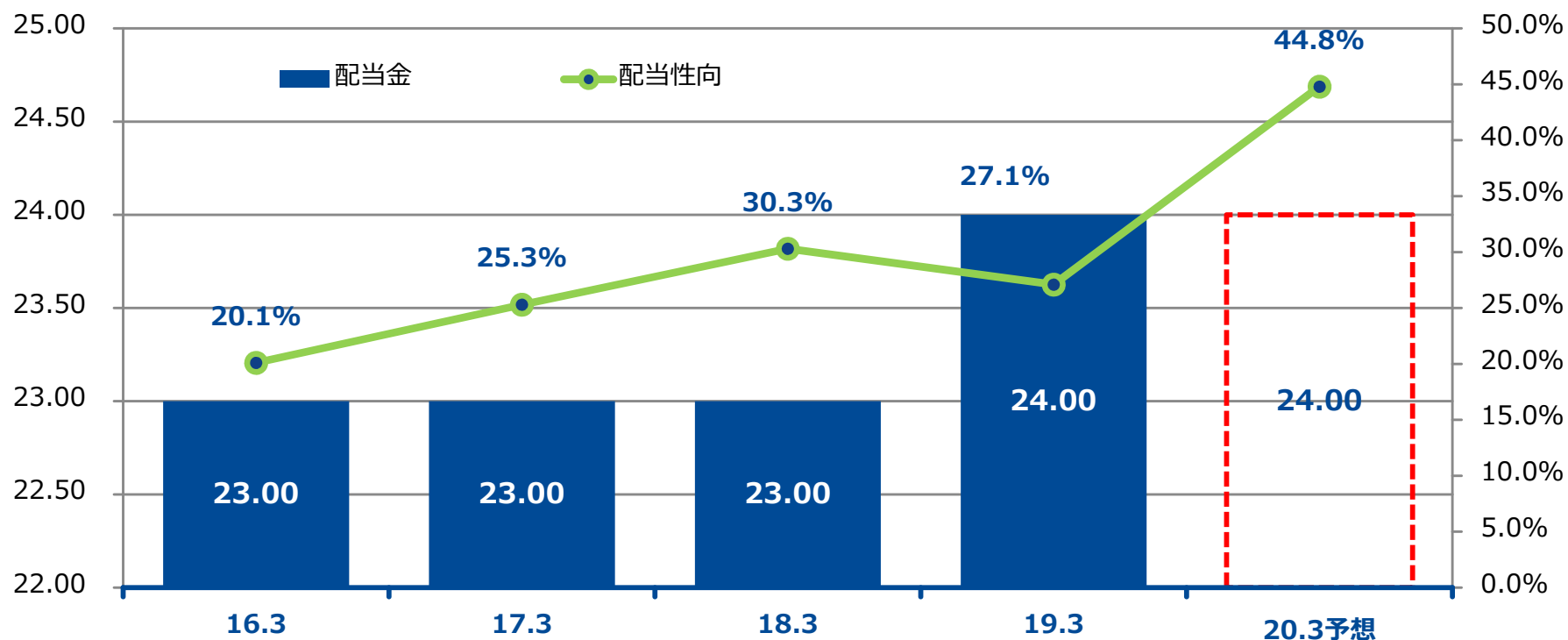
営業利益以下の各段階利益の通期に対する進捗率は低くなっているが、概ね当初計画どおり推移しているため、上期及び通期の業績予想は当初予想から変更なし。

2020年3月期 配当金予想

✓2020年3月期より配当性向30%を目途から
継続的かつ安定的な配当による株主還元を行うことを
基本として配当を決定する方針に変更

予想期末配当 24円 (予想配当性向 44.8%)

(単位：円)



 Development
Venture
X (無限の可能性)

■ I R についてのお問い合わせ先 財務経理部



TEL : 03-5985-6832 FAX : 03-5985-6106 U R L <http://www.dvx.jp/>

本資料はディーバイエックス株式会社の理解を促す参考に資するため、作成したものであり、本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。